

## 神奈川県生涯学習審議会（第13期） 第1回審議会概要

第1回 審議会	開催日	平成29年1月20日（金） 10:00～12:00
	内 容	<p>○第13期生涯学習審議会会長・副会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長に鈴木眞理委員、副会長に小池茂子委員を選出した。</li> </ul> <p>○生涯学習審議会に対する神奈川県教育委員会からの諮問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県教育委員会から、「地域と学校の連携・協働の推進について」の諮問があり、これを今期のテーマとして調査審議を行うこととした。</li> <li>・事務局から、審議会の運営と、地域と学校の連携・協働に関する資料についての説明が行われた。</li> <li>・自己紹介を兼ねて、各委員が諮問内容に関する意見を述べた。</li> </ul>

### 【諮問内容「地域と学校の連携・協働の推進」に関する主な発言】

- 諮問文の肝心な部分は最後の三行で、「地域・学校において連携・協働活動を進めるためのポイントや連携・協働を推進するための体制の整備、地域住民等の参画の促進に繋がる施策など」ときて、最後に「多角的に」ということで、我々にかなり裁量の部分を与えていただいていると理解しています。このテーマは、かなり包括的なテーマだと承ります。
- 地域と学校というと、ワークライフバランスや定年後のキャリアという点で、生涯学習というところを考えていけると感じています。
- 地域との連携・協働ということになると、学校は何か一つ重荷を負ったのではないかと考えてしまうこともありますが、私たちが地域の力を借りて学校教育を進められればと考えます。
- 学校側の改善の問題、社会教育施設のあり方の問題、そして、それをつないでいる地域住民の方々のあり方、これらが上手く一体とならないと諮問テーマの解決策が見えてこないのではないかと思います。
- 校長・教員も、地域住民も、学校だけで子どもの教育を完結するのではなく、「地域に支えられた学校」、「地域に貢献する学校」、「地域住民の学校」という意識をもつ必要があるのではないのでしょうか。そして、学校だけではなく地域でも学ぶという「地域の学校化」と、地域の方々を学校に受け入れていく「学校の地域化」を、具体化していくことが重要ではないかと考えます。

- 学校と地域の連携はすごく大事なことです。地域学校協働本部を進めていくには、教職員の方の負担という観点も入れながら、議論を進めていくことが、現実的に取り組みを進める上で大事ではないかと思っています。
- 基本的には、生涯学習は、学校のための役に立つための学びの場ではないと思っています。学んだ成果を活かさなければいけないと言われてはいますが、現実には、あるべき姿が先にあるのではなく、社会の中で築いてきた自分のキャリアを活かしたいと思う人たちの能力を、学校という場でどのようにしたら活かしていくことができるシステムをつくることのできるのかということを考えていく必要があると思います。
- 学校には、学校教育の特質というものがあつたため、学校教育のやり方でやるしかなく、ある程度の画一化はやむを得ません。「連携」や「協働」となると、社会教育の良さや学校の良さを逆に潰してしまうことになつたらもつたないのて、学校教育は学校教育で、社会教育は社会教育でということができるかどうか。
- 連携が前提の議論が全国的に行われていますが、みんなが学校のために尽くさなければいけないか。協力しなければいけないのか。それぞれが自立的に共生できるように、社会教育と学校教育がそれぞれ純然な機能を発揮できるような方法も一つはあるかもしれません。
- みんなが良いおじいさんという前提で地域と学校の連携と言っていますが、悪いおじいさんがきたらどうなるのでしょうか。何となくほんわかムードで語られている辺りが気になるところなので、少なくとも考えてみたいと思います。
- もう一つ、一般の方から見ると学校と地域については「関係ない」し「知らない」といった状況があるのでその辺りを考えていかないといけないと思います。
- 社会教育の観点での見方をしていくことも重要ではないでしょうか。

## 【地域と学校の連携・協働の現状に関する主な発言】

- 夏に地域のお祭りをまわると、十数年前と違って、必ず校長先生や担当の先生が2, 3人で、地域の方々と積極的に話す姿を見かけます。こういうことが、生涯学習、地域と学校の連携の肝になると思います。
- 学校から助けて欲しい、知恵を貸して欲しいという発信があって、はじめて、地域にいる様々な経験を持った方が、「よし、それなら」ということになるという現実があります。
- 川崎市では、地域ぐるみで子どもの教育、学習をサポートすることを通して地域の教育力の向上を図ることを目的に、シニア世代の方々の知識や経験等を生かしながら、週に一回学習サポートをし、月に一回、土曜日や日曜日に体験活動を行う「地域の寺子屋事業」を26箇所で行っています。  
また、昭和63年から、7行政区と51中学校区において、学校、PTA、教職員、町内会、民生委員、保護司、社会教育施設の職員などによる「地域教育会議」を設置しています。
- 私が関わっている小田原の小学校の放課後子ども教室では、週三回、放課後午後4時まで全学年を対象に、学習アドバイザーとして退職された先生方を中心に行っています。時間があるときには、体験活動や地域の方に来ていただいて昔の話をさせていただくといった活動も取り入れていて、少しずつ定着してきていると感じています。  
また、小田原市では、公立の全小学校、中学校、幼稚園に、学校と地域をつなぐ、橋渡しをする役割を担うスクールボランティアのコーディネーターを配属しているので、スクールボランティアに関しては充実し、協働という考え方、仕組みづくりはできていると思います。
- 私の地域にある大根公民館（秦野市）では、大根中学校区の小学校2校の子どもたちが、公民館で寝泊りをし、近所の家にもらい湯に行ったり職業体験をしたりして、公民館から学校に通う「通学合宿」事業をしています。子どもたちは楽しくてよいのですが、大人は結構大変です。
- 厚木市は、公民館区がしっかりしていて、学校だけに頼らなくても公民館区で地域づくりができていますが、反面、学校とのかかわり方が不得手なところも多少あります。
- 大和市では、青少年の健全育成を目的として、「家庭・地域教育活性化会議」を市内の9地区で組織化しています。自治会の代表の方、青少年指導員、PTA、民生委員の方、小中学校の校長先生等が入っているので、こうした組織を発展的にうまく使いながらやっていくというイメージを持っています。
- 南足柄市では、学校ボランティアに関わるスクールコーディネーターを全校配置し、地域の方々が学校の授業や行事等に関わるというかたちで取り組んでいます。また、全小学校に放課後子ども教室を設置し、週に一回の活動ですが、地域の方々が子どもたちと一緒に遊んだりする取り組みもしています。

## 【審議会の運営等に関する主な発言】

- この会を、意味ある形で最後に我々の意見として出すことを考えながら進めさせていただきたいと思っています。
- 審議会の運営については、これまで、実質的なところを部会に任せ、さらに事務局に過度な負担がいつているということを感じています。事務局や部会の委員になられた方々の負担も減らすことが必要と思います。しかし、部会員になられた方がケーススタディを行ってレポートにまとめることは、その方々にとっては大変意味があり捨てがたいことなので、難しい判断が迫られます。
- 答申に重きが置かれ過ぎているので、ここで自由な意見の交換を行うことがより重要なことではないかと思います。答申の骨子ぐらいものを答申にするということもどこかで考えていくようにした方がよいと思います。
- 資料には現状と取組は詳しく書かれていますが、これからは、社会教育的に言うと、課題の共有化とその解決に向けた具体的な提案がなければならないのに、入っていないと思いました。
- さいたま市の社会教育委員の会議では、学んだ成果を地域に生かすことをどのようにすればやっていけるかということ調査審議しています。社会教育委員が、さいたま市の「チャレンジスクールボランティア」として活躍されている方たちに聞き取り調査をして、市はどのようにしたらさらに多くの人たちがこういったボランティアの場に参加できるのかなど、そこから見てきた行政への要望を答申にまとめていきたいというところでやっています。  
今回の神奈川県の実践についても同じような問題意識の基に、会長が言われたワーキンググループなどを含めて実のある答申にまとめていければよいと思いました。
- 事務局には、第12期の答申をプリントアウトして委員の皆さんに届けていただきたい。また、ここ3期か4期の程度の分についても、簡単なまとめをつくらせている筈なので、一枚もので構わないので次回にでも配布していただきたい。さらに加えて、次回までをお願いするものではありませんが、それらの提言、答申がどのように活かされているかということについて示していただくと、我々のやる気につながると思います。  
県の教育ビジョンとの接合について考えて、そこに載せられるようなことを言っていけば、われわれの議論が無駄ではないということになると思うので、そのあたりについても検討していただいて、教育ビジョンにかすっているなどと言ってもらえると、やる気につながると思います。